しあわせ

令和8年 10月 29日（木）
静 岡 大 学 教 育 学 部
附 属 静 岡 小 学 校
2年 学年だより 11月号

友だちと学ぶ中で

後期に入り、早いもので一か月が経ちました。その中で、前期を振り返り後期の目標を立て、日々の生活をよりよくしていこうとする姿や授業を頑張る姿が見られます。

後期の係を決める際には、前期で経験したことを踏まえて「〇係はあまり仕事がなかったから△係と合体させようよ」「手紙を取りに行く人が決まっていなかったから、手紙係をつくろうよ」と係の仕事を見つめ直し、もっとみんなが過ごしやすくなること（みんなのしあわせ）を意識して精選しました。係の仕事に取り組む中では、同じ係の子と仕事の仕方について相談したり、任された仕事をこなせるように協力したりしています。手紙係の子は、手紙を取りに行く時間を前もって相談し、その時間になったら「〇〇くん行こう！」と声を掛け合っています。ワゴン係の子は配膳台の３つの台のどれを拭くのかを分担しながらも、早く拭き終わった子が「手伝うよ！」とまだ拭き終わっていない台を一緒に拭いています。道徳「自分のよいところ」の学習では「自分にはどんなよいところがあるのか」と自身を見つめ直しました。その際「友達と仲良くできるところ。仲良くできるから一回も喧嘩したことないんだよ」「人を助けられるところ。誰かが困っていたら『大丈夫？』って言ってあげてるよ」と自身のいいところを学級に発言する姿や「自分のいいところか…」「自分で言うのって何だかはずかしい」と自分のいいところを自身で表現することを戸惑う姿もありました。その後「友達のよいところはどんなところか」という話になり「〇〇くんはいつもたくさん発表していてがんばっているよ」「〇〇ちゃんはいつも人の話をよく聞いているよ」など、たくさんの発言で盛り上がりました。よいところを言ってもらった子は恥ずかしそうな様子を見せながらもうれしそうな表情で、発言している子も自分のことを言っているように嬉しそうな様子でした。また、ワークシートやその日の日記には「褒めてもらえてすごくうれしかった」「今度は友達のいいところもたくさん見つけていきたい」「自分のよいところをもっと増やしたい」などの記述があり、子ども一人ひとりが自分自身や友達に向き合おうとしているように感じました。算数「かけ算」の学習では、九九をスラスラ言えるように練習を続けています。友達とタイムを競ったり、互いに聞き合って九九の言い方が正しいかを確認したりして、友達と共に練習する姿が見られます。ある子は、九九のテストに合格できなかった子に対して「大丈夫！練習では言えてたよ！もう一回練習すればできるよ！」と励まし、その後、九九のテストに合格すると、「やったね〇〇ちゃん！やっぱりできたじゃん！これで私と同じ〇の段だね！また一緒に頑張ろう！」と自分のことのように喜び、２人でまた練習に取り組んでいました。

友達と協力したり、よさを見つけて伝えたり、困っているときに励ましたり、一緒に頑張ることを喜んだりするしあわせの子どもの姿に、友達と学ぶことの素敵さを感じます。友達がいるから頑張れること、友達と一緒だからうれしさが何倍にもなること。そんな経験をこれからもたくさん重ねながら、共に成長していってほしいと思います。





